

深いところまで潜って採食する鳥 -キンクロハジロ-

昨年は年の暮れから林泉の池で見られました。カモ目カモ科の「キンクロハジロ」です。

キンクロハジロは全長約40cmです。目が「金色」、頭や背、胸、尾羽、翼の上面が「黒色」、翼に現れる帯が白で「羽白」、見た目からそのままキンクロハジロ(金黒羽白)と名付けられています。あまり鳴く鳥ではありませんが、オスは「キュッ」「カガァ」と鳴きます。

ユーラシア大陸高緯度で繁殖し、冬は主にユーラシア大陸南部、アフリカ大陸に渡って越冬します。日本では全土に飛来し、本州、四国、九州で越冬する冬鳥です。

日中は休息していることが多く、暗くなると食物の多い所へ行き、活発に動き回ります。貝類やカニ、エビなどの甲殻類から水生昆虫などのほか、水草なども食べます。潜って食べる潜水採食をします。潜る能力が高く水深10m近くまで潜ることができます。

後頭部の冠羽はオスが長めで、メスはオスと比べると短いです。飛び立つ時は水面を助走しながら飛び上がります。

11月初旬までは、林泉の池にあまり水鳥は来ておらず、ひっそりとしています。今後、キンクロハジロやコガモ、カルガモ、カイツブリなどの水鳥が、たくさん飛来するのを心待ちにしています。昨年はオスを見つけることができなかったので「今年こそは」と狙っています。



休息しているキンクロハジロ



何をしているのかな？



キノコ教室

10月4日(日)

今年は、コロナ禍に対応したキノコ教室となりました。参加人数を減らし、センターでの全体会もなくなりました。9時から参加者はそれぞれに陶史の森に入り、キノコ採集を行いました。10時から講師の先生方にキノコの判別をしていただくだけの簡素な活動となりましたが、参加した方々は、珍しいキノコや食べられるかもしれないキノコを持ち寄り、先生方に説明を受けていました。多種多様なキノコの説明をしていただくと、「どれが食べられるのでしょうか」との質問も出て、食べることができるキノコを大切に持ち帰る人も多かったです。



教室のご案内

11月

バードウォッチング (要申込 定員10名)

11月22日(日) 午前9時～11時30分

晩秋の野鳥を観察します。

12月

バードウォッチング (要申込 定員10名)

12月27日(日) 午前9時～11時30分

初冬の野鳥を観察します。

ネイチャーセンターでは、双眼鏡や野鳥図鑑を貸し出しています。気軽に声を掛けてください。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。